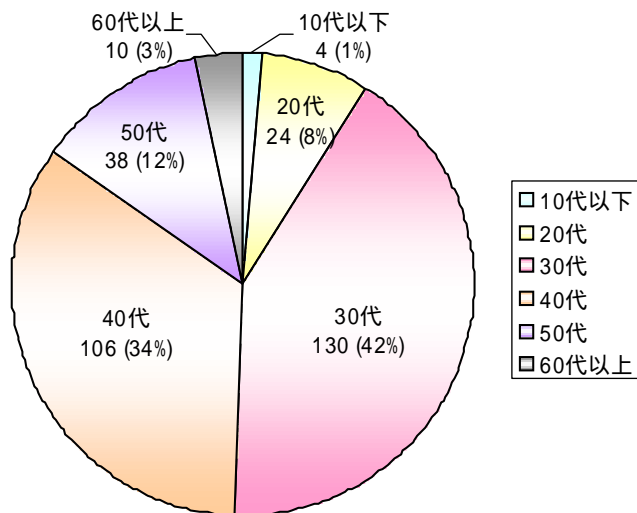


今後の子ども・子育て支援策への意見募集について

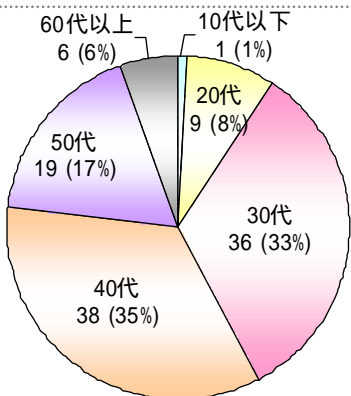
意見総数 312件 (男性109件、女性203件)

(募集期間 : 平成21年10月16日(金) ~ 11月11日(水))

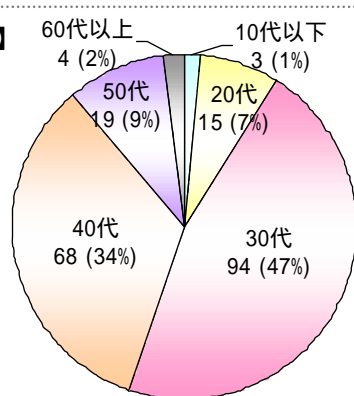
年代別



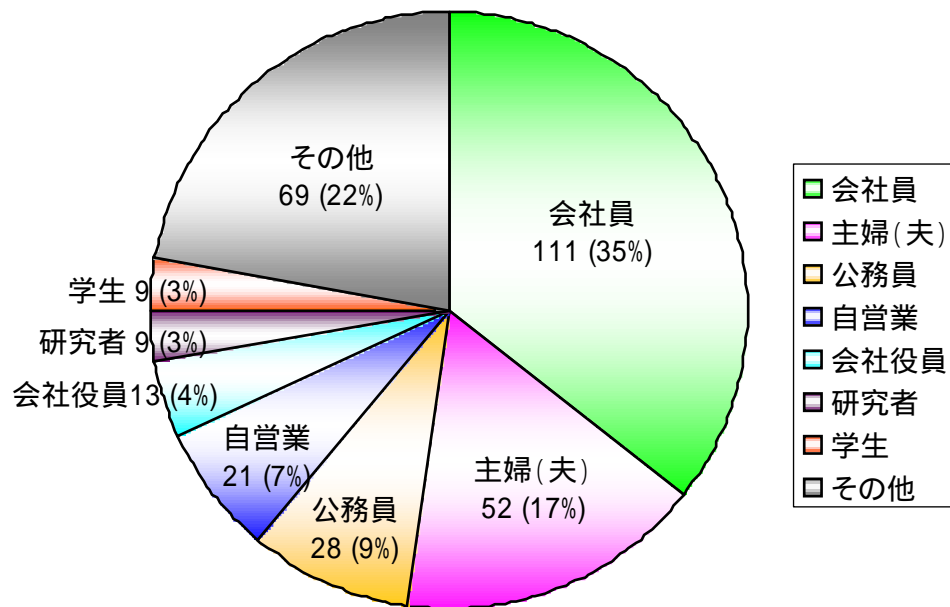
【男性】



【女性】

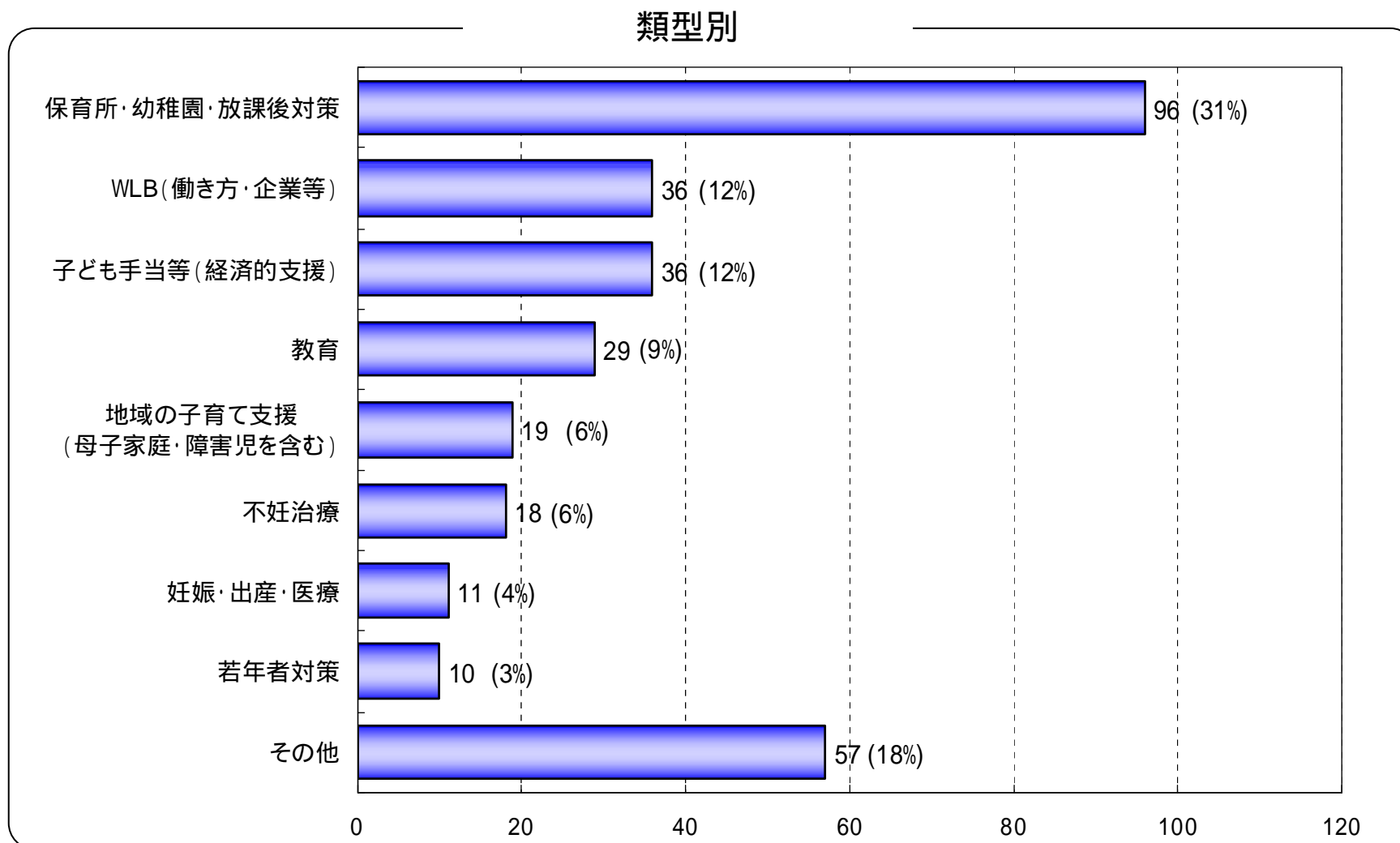


職業別



今後の子ども・子育て支援策への意見募集について

『保育所・幼稚園・放課後対策』に関する意見が最も多く96件(31%)、次いで、『WLB(働き方・企業等)』及び『子ども手当等(経済的支援)』に関する意見がそれぞれ36件(12%)などとなっている。



1人の意見の中に、複数の事項への言及がある場合には、最も中心と思われるご主張をもとに集計。

今後の子ども・子育て支援策への意見募集について

『保育所・幼稚園・放課後対策』に関する主な意見

- ・ 現在不足している保育園、保育士とその待遇を向上させる為にこそお金を使って頂きたい。(50歳女性)
- ・ 誰でも保育所に入れる、働きにいくことができる社会になればもっと女性は子供を育てやすくなる。(26歳女性)
- ・ 子供が病気しても預かってくれる施設の充実を望む。(41歳女性)
- ・ 質を落として量を増やすのではなく、質を維持して量を増やして下さい。(41歳女性)
- ・ 保育園の面積基準や保育士の配置基準が、待機児童解消の名目で緩和され、「詰め込み保育」にならないように、現行の国の最低基準は堅持していただきたい。(45歳女性)
- ・ 今後の子育て支援においては、保育所、幼稚園の拡充が必要不可欠。(23歳男性)
- ・ 放課後児童健全育成事業の施設面・運営面への補助の拡充をぜひとも推し進めてほしい。(33歳男性)
- ・ 放課後児童クラブの充実は、指導員の賃金、身分をしっかりと確保することが必須。(45歳男性)
- ・ 放課後児童クラブ施設の大規模解消と指導員の人材確保ができるように国が積極的に財政支援するべき。(53歳男性)

『WLB(働き方・企業等)』に関する主な意見

- ・ 母親だけでなく、父親が子育てのための時間、休みを取りやすい社会をつくっていくことが必要。(35歳女性)
- ・ 産休・育休が取りやすく、給料が保障される政策をとってほしい。(26歳女性)
- ・ 社会全体が帰宅時間を早める仕組みか、男性にも理解してもらえる環境が必要。(34歳女性)
- ・ 正社員のように派遣社員も勤労しながらもっと容易に妊娠し、育児休暇が取れる制度、仕組みづくりをお願いしたい。(34歳女性)
- ・ 男女を問わず異常な長時間労働をなくし、サービス残業や非正規雇用を是正し、人間らしい働き方を確立することは、少子化問題解決のために不可欠。(33歳男性)

『子ども手当等(経済的支援)』に関する主な意見

- ・ 所得制限はつけるべきだと思う。年収1000万以上の家庭には不要。(35歳女性)
- ・ 借金が増えて国民の生活を圧迫してしまうのではないか。(19歳女性)
- ・ 子ども手当をするなら一人目より二人目、三人目にと増額した手当がいい。(37歳女性)
- ・ 現金支給では、本当に子供のために使われるかわからない。子供のためのサービスや買い物にのみ使えるクーポンを発券して各家庭に配るべき。(31歳男性)
- ・ 資金を渡すのは賛成だが、税の扶養控除打ち切りは反対。(32歳女性)
- ・ 高校～大学生の子どもを育てる家庭への経済的支援の拡充を。(46歳女性)

今後の子ども・子育て支援策への意見募集について

『教育』に関する主な意見

- ・ すべての子どもが平等に教育機会を得られるよう、大学まで学費の心配をしないで通えるようにしてほしい。(39歳女性)
- ・ 学力レベルの高い公立校を増やすべき。(36歳女性)
- ・ 給食費など義務教育には一切お金がかからなくすることが必要。(56歳男性)

『地域の子育て支援(母子家庭・障害児を含む)』に関する主な意見

- ・ 地域や世代間での子育て促進を。(47歳女性) ・ 地域の子育てセンター、児童館の充実を。(51歳女性)
- ・ 地域子育て支援拠点や児童館等では障がい児親子が参加できる開かれた場所がない。(54歳男性)
- ・ 今の施策では母子家庭の支援として不十分。(53歳女性)

『不妊治療』に関する主な意見

- ・ 不妊治療は精神的、肉体的、金銭的に容赦なく追い詰められる厳しい治療。(40歳女性)
- ・ 保険適用とまでいかななくても、保険適用外になっている治療の経済的負担を軽減して欲しい。(37歳女性)
- ・ 産むための性教育の普及(現行の性教育のみでは、年齢に伴う妊娠率の低下などを知り得ない)が必要。(33歳女性)

『妊娠・出産・医療』に関する主な意見

- ・ 安心して子どもが産める環境が必要。妊婦健診にかかるお金や、安心して産める病院を充実させて欲しい。(26歳女性)
- ・ 医療費の軽減を積極的にすすめていただきたい。(25歳男性)

『若年者対策』に関する主な意見

- ・ 安定した雇用は未来志向・家族形成につながる。(61歳女性)
- ・ 若者が前向きになり、将来に希望が持てる政策が必要。(60歳女性)
- ・ 晩婚化、非婚化の進行により、子供が産める環境ではない。独身男女の婚活が必要。(32歳男性)

『その他』に関する主な意見

- ・ 将来輝く子ども達のためにもっともっと、予算をさいていただきたい。(22歳女性)
- ・ 子育ての醍醐味をもっともっと皆に伝え、子育てに関心をもつ大人を増やす。(45歳女性)
- ・ 子どもの育ちにとって、豊かな遊び体験は不可欠。(45歳女性)
- ・ 子どものない家庭にも支援策と環境を整えるべき。(36歳女性)
- ・ 子どもが健康に生まれてくるように、若い女性や妊婦さんの喫煙防止対策を充実。(55歳男性)